

地域フォーミュラリ作成の取り組みと課題

法人名 国家公務員共済組合連合会
病院名 横浜南共済病院
職種・所属 薬剤科
発表者氏名 中島研
協力者氏名 佐藤剛

【背景・目的】

フォーミュラリは「疾患の診断、予防、治療や健康増進に対して、医師を始めとする薬剤師・他の医療従事者による臨床的な判断を表すために必要な、継続的にアップデートされる薬のリストと関連情報」¹⁾と定義され、有効で経済的な医薬品の使用における方針となっている。フォーミュラリを地域レベルで作成することにより、推奨度に合わせた地域内での処方内容に変化が見られたと報告されているが、横浜南共済病院（以下 当院）の地域では取り組みは不十分である。

今回は現在当院で進めているフォーミュラリ作成の取り組みについて報告する。

【方法】

横浜市大病院と情報の共有をはかりながら院内フォーミュラリを作成した。院内での周知を行うとともに、さらに地域フォーミュラリへと拡大していくこととした。

【結果】

2020年3月に院内フォーミュラリを発表した。カルバペネム系抗菌薬、インフルエンザ治療薬、PPI注射剤、持続型インスリン製剤、速効型インスリン製剤、HMG-CoA還元酵素阻害剤などについて、推奨を作成した。

一方、その後院内の周知を行い、さらなる検討を進めていく予定であったが、新型コロナワクチン対応などもあり、不十分な状況が続いている。

さらに地域フォーミュラリについては、現在地域の関係が難しい状況であるが、横浜市大病院との連携を強化し、本年度さらに推進していく予定である。

【考察と課題】

院内フォーミュラリに関しては、作成までは大きな問題はないが、周知や徹底に関しては進んでいない。地域フォーミュラリについては、他の施設との足並みをそろえ、共同で進める必要がある。現在は新型コロナウイルス対策のために会議を開くことも難しい状況ではあるが、インターネットを介したツールなどの手段により、策定を進めていきたいと考えている。